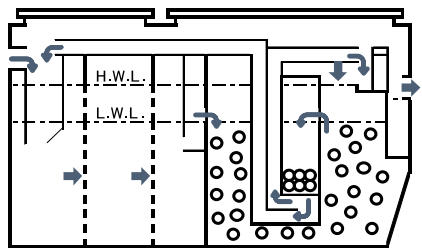
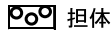


## 事例 6 4 空気逃しバルブ取付けによる攪拌調整をした水質改善事例（保守点検）

### 1. 基本情報および概要図

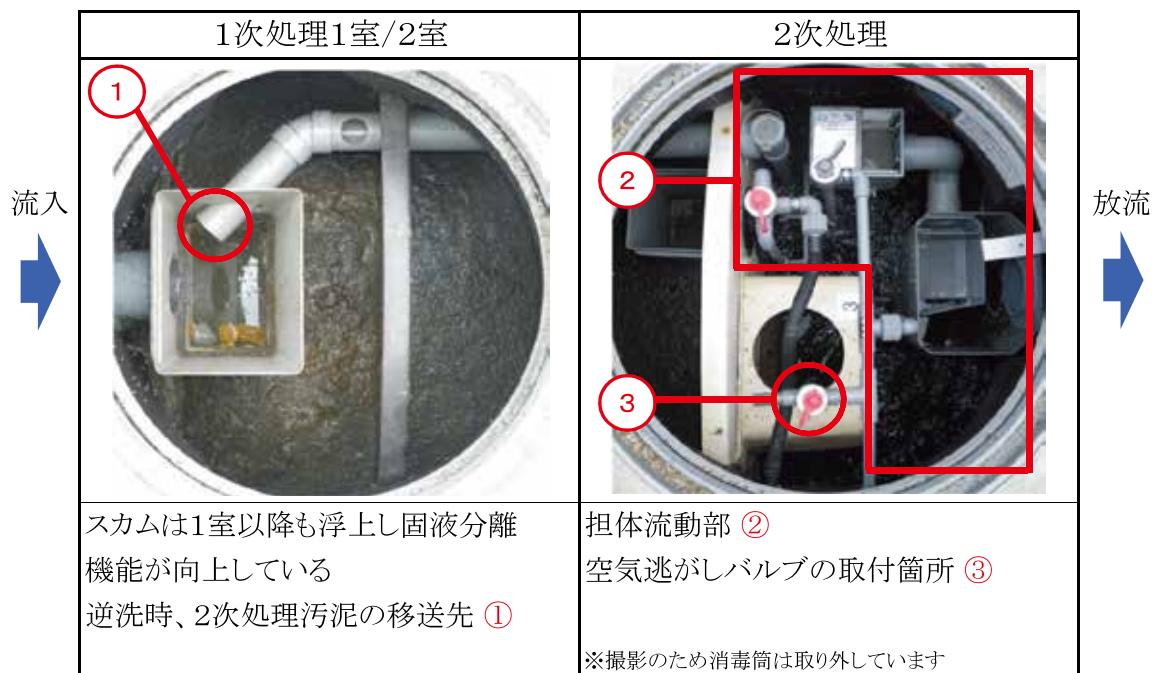
処理方式	性能評価型 BOD除去型	作業予定月	
メーカー／型式	(株)ダイキアクシス／MCP型	清掃	11月
人槽／使用人員	5人槽／4人使用	保守点検	1・5・9月
日平均汚水量	0.71m <sup>3</sup> /日	法定検査	7月

法定検査時の設定状況(平成27年7月24日)			概要図
	メーカーの基本設定	保守点検の設定	
循環排出バルブ	40%	40%	
移送水量	7.0 L/分	7.0 L/分	
逆洗設定	1日2回20分(3:00, 15:00)	1日2回5分(3:00, 4:00)	
MCP型の特徴			
1次処理	ろ材は充填されていない		
2次処理	汚泥が付着しやすいスポンジ担体		
ピークカット機能	L.W.L.時とH.W.L.時の槽内水位差15cm		

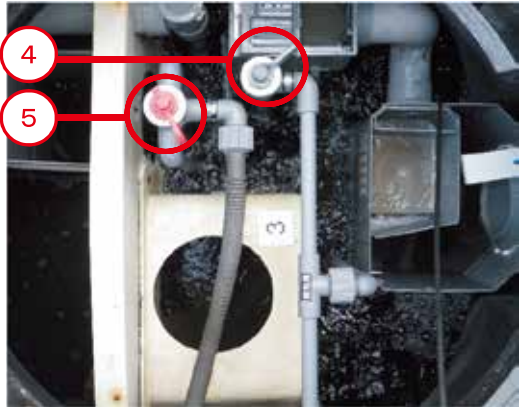
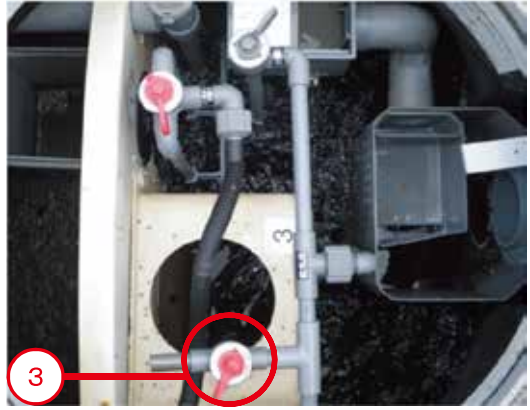
### 2. 一年間の測定結果と透視度低下の原因

	放流水透視度(度)	DO (mg/L)	pH	1次処理流出水透視度(度)	1次処理1室(cm)		1次処理2室(cm)		沈殿槽	
					スカム厚	堆積汚泥厚	スカム厚	堆積汚泥厚		
法定	平成26年 7月 8日	15	5.4	6.6	12	3	32	0	17	沈殿槽がない構造 (生物ろ過部から消毒槽へ送られる)
保守	平成26年 9月12日	16	6.1	6.2	12	5	35	0	21	
清掃	平成26年11月14日	13	/	7.3	7	6	40	/	25	
保守	平成27年 1月19日	<u>17</u>	5.4	6.4	9	2	15	1	9	
保守	平成27年 5月14日	28	3.0	6.7	18	5	20	1	10	
法定	平成27年 7月24日	<u>32</u>	2.2	6.8	16	6	22	2	14	
原因	2次処理に浮遊汚泥が多い									


### 3. 槽内写真(法定検査時;平成27年7月24日)



#### 4. 水質改善の対策

通常の空気配管	空気逃がしバルブ取付後 ③
	
<p>循環排出バルブ ④ 逆洗排水移送バルブ ⑤</p>	<p>取付日 <u>平成27年1月19日</u> (保守点検時) ろ過速度を抑えたまま担体流動部の 攪拌水流を弱めることができる</p>

#### 5. 対策の効果

担体流動部内水と移送汚泥の状況			
改善前(平成27年1月)		改善後(平成27年7月)	
			
<p>担体流動部内水(容器) ② ・浮遊汚泥は多く透視度が低い 移送汚泥(メスシリンダー) ① ・上部に浮遊汚泥が多い</p>		<p>担体流動部内水(容器) ② ・浮遊汚泥は少なく透視度が高い 移送汚泥(メスシリンダー) ① ・上部に浮遊汚泥は少なく透明感がある</p>	

#### 6. 保守点検時の留意点

- 1) 担体の流動が停止しないよう空気逃がし調整を行う
- 2) 手動逆洗は汚泥移送を停止して通常設定の2倍以上実施する
- 3) 逆洗の設定は流入水がない時間帯が望ましい
- 4) 清掃業者へ空気逃がしバルブの取付と調整内容について申し送る

#### 7. 清掃時の留意点

- 1) 2次処理は担体引抜き防止のためサクシオンホースを投入しない
  - 2) 2次処理の汚泥は逆洗で1次処理へ移送し引抜く
  - 3) 汚泥移送後は2次処理に水張りを行いながら逆洗すると剥離効果が高い
- 【1次処理】ろ材無し  
【2次処理】スポンジ担体